

富山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会概要
(第26回子ども・子育て会議)

1 開 会 (14時から)

(定員数：委員の過半数が出席していることを確認。池館委員、橋本委員、八木委員 各委員欠席)

2 こども家庭部長挨拶

3 議 事

(1) 家庭的保育事業の認可申請及び保育施設の新年度利用定員等について

【主な意見等】

委 員 昨年度、新たに認定こども園が1か所開設されることで、今後は認定こども園等の施設を新たに開設しないというような話を聞いた記憶がある。

資料を見ると、東部区域では保育の受け皿が足りていないのではないかと。東部区域で認定こども園等の申請があった場合は受けられるのか、このような小規模な施設だから認可するということなのか。

事 務 局 現時点では東部区域では、保育の受け皿が不足していると考えている。一方で、児童数の減少というのは進んでいる。また、今年度(令和5年度)に行ったニーズ調査も踏まえて、受け皿が不足していると考えている東部区域や南部区域の動向を見極めながら、慎重に判断する必要があると考えている。

規模が小さいことも判断のひとつにはあったと思うが、数百人規模の保育施設になると、整備後の施設の継続についても考慮し、児童数の推移やニーズ調査の結果なども踏まえて、より慎重な判断が必要と考えている。

委 員 連携施設から給食を搬入するということだが、搬入方法について、こちらの職員が取りに行くのではなく、連携施設の方から運んでもらえるのか。

職員構成を見ると、主となる方が経験年数5年ということだが、この方の3歳未満児の経験年数はどの程度なのか。もう1人の職員は経験年数0年とあり、全く経験がない方かと思うので、少規模施設のため目が届く部分もあるかと思うが、経験が少ない方だけの運営は心配な点もあるので確認したい。

経験年数0年の方は、この春に学校を卒業されるのかもしれないが、例えば、他園などで研修をしたりといったことはあるのか。

事 務 局 給食の搬入については、当該施設職員が車で連携施設まで給食を取りに行く予定となっている。

ご質問の勤務年数や研修の保育施設の状況については、現時点で聞き取りができていないので、あらためて確認する。

- 委 員 職員の 1 人が給食を取りに行くとなると、保育士は何人残るのか。
- 委 員 3 歳未満児の昼の時間帯は、お昼寝などの対応もあって大変と思われるが、その時間帯に（給食を取りに行くことで）職員が 1 人少なくなることは不安。
- 委 員 職員の経験年数も気になるが、園長自身が常時いるとは限らない状況の中、職員 2 名は子育て経験がえられるのか。自身に子育て経験があれば、お子さんの様子や生育について経験から分かれると思うが、全く経験がないとなると不安に感じる。
- 委 員 本来の園運営を考えるとすると、常勤の方 2 人では足りないんだろうと思う。職員の配置基準上は問題ないのだと思うが、実際保育をしていくとなると不安なことが出てくるのではないかな。例えば、職員が 1 人休んだ時の対応など、数字上ではなくて実務上で苦しい部分があるかと思う。
- 事 務 局 事務局としていただいたご意見を受け止め、委員の皆さんが心配に感じる部分をしっかり申請者に伝えて、例えば職員体制などにおいて、何か対応いただけないか投げかけたいと思う。
- 委 員 定員は 5 人とあるが、例えば、年度途中入所により定員を超えることも認められるのか。
- 0～2 歳が一番危険な年代の子どもたちだと思うので、安心・安全に子どもたちが過ごせるようにするためにはどうしたらいいか考えると、もう少し職員が配置されればよいと思う。
- 事 務 局 家庭的保育の定員がそもそも 5 人と決まっているため、まずは定員内というところを基本に考えており、入所の決定は、市がするため安全性が確認できない以上は定員を超えることはないと考えている。
- しっかりと施設側とコミュニケーションを取りながら、危険な状況にならないように目配りしていきたいと考えている。
- 委 員 園の特徴として記載してあることが、遊びであったり、園だよりであったり、0～2 歳の家庭的保育であれば、もう少し 1 対 1 の対応など、そういったことが主となるのではないかと感じた。そういう点からも、もしかすると、あまり未満児保育経験のない職員の方なのかと思い、先ほど経験年数について質問させていただいた。
- 委 員 園の特徴として、「積極的に ICT 化を取り入れていきます」とあり、これ自体はいいことだと思うが、「園での写真や動画なども撮影し共有できるように

します」とあり、例えば小・中・高校だと、個人の顔や名前などはすごく慎重に扱っている。保護者とそういう状況が、必ずしも共有できていないということがあった時に、例えば、この写真や動画は、園からもらったものだからと誰かと共有する、お友達同士のやりとりの感覚で情報が独り歩きすることがないとも言えないのではないかなと思う。

取組そのものは悪いことではないが、始める前に、保護者の方たちへの教育も必要なのではないかなと思った。

事務局 どの施設もそのあたりは大変慎重に対応しておられ、みなさん細心の注意を払っている。例えば写真を撮る際にも、撮ってほしくないかなど意思確認しており、動画も一方的に撮影するといったことは基本的にはないと考えているが、いただいたご意見は申請者にしっかりと伝えさせていただく。

ICT化というと、まずは画像や動画が浮かぶが、近年は午睡チェックなど保育士の不足をICT化でフォローするといった取組も進んでおり、そういった点からも積極的にICT化に取り組まれているものと考えている。

委員 園長先生が月20時間、1日1時間程度しか勤務されないことになると思うが、1日に1時間程度しかいないとなると、通常何も無い時でも心配だが、何かトラブル・問題があった時の対応、園長不在の時の対応、園長への連絡や段取りなどはどのようにするのかといった点については、どの程度把握しているのか

事務局 20時間という短い時間については認識しており、申請者側とも話をしている。その中で現状できる対応としては、開設間もない期間に関してはスタッフも手厚く、園長がいる状況を作ると聞いている。

不在時の対応としては、電話連絡のほか、施設にカメラなどを設置して、リモートで状況を把握できるようにする等を検討していると聞いている。

委員 感覚的には常勤者が責任者というか管理者を兼ねるのが通常という感じがする。

事務局 審議会のみなさんの意見として事務局から申請者にしっかりと伝えさせていただきたい。

あわせて、意見を受けて何らかの是正ができるのか、相手方に確認したい。

委員 例えば、市内で家庭的保育事業を実施している他の事業者の保育士の配置状況なども参考にしながら、進めていければよいのではないかなと思う。市内には家庭的保育事業をやっている施設がどれくらいあるのか。

事務局 現在、家庭的保育事業所は市内に1施設。

委員 その施設の運営はどうなっているか。

事務局 園長は常勤と承知している。

委員 園長が非常勤であるため、経験年数５年の職員が実質、現場の責任者になる。責任者の不在が長く心配。

委員 この会議で意見を聴取するということで、この意見に基づいて市当局で判断することになる。事務局としては運営基準、設置基準をすべて満たしているということだと思うが、運営の質の面で委員の皆さまから様々な意見を伺った。

事務局 意見を申請者にお伝えし、どの程度対応していただけるかをまた報告させていただきたいと思う。

委員 会議では相当強い懸念があったということを申請者には伝えてほしい。
皆さんからは、給食の搬入について、職員の経験不足、人間的な余裕、保育の特徴が未満児のことをしっかりケアできていないのではないかと、責任者（園長）が不在、ICT化にかかる情報教育、SNS発信の危惧といった意見があった。

4 報告事項

（１）第２期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

【主な意見等】

委員 評価がＣ（計画に届いておらず、基準年実績と比較して停滞又は後退しているもの）からＢ（計画には届かないが、基準年実績と比較して進捗しているもの）に改善されるような傾向はあるか。

事務局 事業担当課にもいくつか確認したが、コロナ禍前の数字に回復することはなかなか難しいという声があった。
事業担当課としては、可能な限り、評価Ｂまたは評価Ａ（計画どおり、又は計画を上回って事業が進捗しているもの）となるように努めていきたいということである。

委員 新型コロナの影響もあるが、８割方、評価Ａとなっているのは良いと思う。

委員 「６安全でやさしいまちづくり」の「１幼児・児童交通安全教室の開催」について、小学校だと学校の授業の一環として実施したり、ＰＴＡの親子学級として行うケースがある。学校の行事として行っている場合は申し送りなどあると思うが、ＰＴＡだとコロナ禍で行事ができなくなった間にうまく引継ぎがなさ

れず、どうやって行えばいいのかわからなくなってしまったというケースもあるのではないかと思います。例えば今、コミュニティスクールが導入されているので、こども 110 番の家もそうだと思う、が地域の方々と協力してやっていくこともあると思う。交通安全の旗振りについても、以前なら、もっと P T A や学校が協力して「こんなふうに旗を振って下さい」あるいは「こういうことに気を付けて旗振りをお願いします」など細かいところまで話していたのが、今はそういった対応を省略しようとなった結果、保護者は経験がない状態でやっている状況である。例えば、「おはようございます・いってらっしゃいの挨拶をしてください」、あるいは「登校班が横断歩道を渡り切れない時は、この子までなら渡れるだろうというところで判断をお願いします」など、考えればわかるようなことかもしれないが、中には不安を感じる保護者の方々がおられる。それは P T A 役員や地域の方が少し言葉かけをすると、違ってくることもあると感じているので、評価 C には、そのようなことも影響しているのではないかと思います。

(2) 富山市こども計画に関する調査について

【主な意見等】

委 員 ニーズ調査、生活実態調査結果はそれぞれ納得するような点も多かったように思う。また職員ヒアリングもリアルな声が聴かれた。子ども・若者への調査も、現実的で具体的な要望があったように思う。

委 員 (子育てに支援に携わる職員ヒアリングについては、) 普段なかなか聞けないご意見を聞けたということに加えて、こういった職員の共有の場がこれからも継続してできていくと職員の方も吐き出せていいと思った。

(3) 令和 6 年度「富山市少子化対策推進戦略」について

(4) 「第 3 期富山市障害児福祉計画」の策定について

【主な意見等】

委 員 これまで子育て支援が少子化対策というような向きもあったが、トータルで生活環境や経済的不安を含めて豊かな生活ができる、子育てができるということが一体とならないと、なかなか少子化対策は進まないということが今回改めて確認されたと思う。

委 員 先ほどご報告のあった職員ヒアリングとも関連するが、障害児通所支援の保育所等訪問支援の見込量が少ないように感じた。現場ではとても困っているという話なので、お子さんや親御さんへの対応も含めて、先ほどのヒアリング結果にもあったので、ニーズにしっかり対応するということで推進してほしい。

(16 時 00 分終了)